

2009年3月25日発行  
第1巻 第6号  
2009年4月号



ナショナル  
ジオグラフィック  
日本版

# NATIONAL GEOGRAJAP

## パラミータ文明の鍵は オレイハルコス



人間をキャンバスにするボディペイント  
ダイヤモンドで覆われた原人の頭蓋骨  
ナメナメクージの研究開始

# 長井一馬 銀の装身具展



4月25日(土)～5月31日(日)

清里北澤美術館

太古から人は、装身具を身に付けて来ました。近年の大量生産文明に於いて、多くの装身具は工業製品として、ある種の力を萎縮させてしまいました。退化してしまったスピリチュアルな感性を取り戻す本来の心の欲求は、シビアな仕事を求めます。滅び去った多くの文明のように又、現代文明が滅び去った後 私の作品は、心動かす出土品になれるでしょうか？ 長井一馬

## 人間をキャンバスにするボディペイント



いま、日本でひそかなブームとなっているのが、ボディペイントのライブパフォーマンス。1月の下旬に吉祥寺のギャラリーで行われた「ART INSTALLATION PARTY」には、3人の著名なアーティストが連日ボディペイントのライブを行い、3日間で延べ5万人の来場者が押し寄せた。生身の人間をキャンバスにしたアート作品は、まさに一夜限り。残すことができないアートをひと目見するために全国各地からファンが駆け

つけたようだ。

取材に訪れた日にライブを行っていたのはボディペイントの第一人者、絵獅匠(えしまさ)。強烈な音楽とドライアイスのスモークの演出の中、エアブラシを操る絵獅匠のエネルギッシュなパフォーマンスは、まるでロックバンドのライブのようだった。約1時間で完成した作品は、カメラによって記録されたが、その魅力をどれだけ伝えることができるのだろうか？

### 読者の皆様へ

©JAP Inc.

●「ナショナル・ジオグラフィック」の内容はすべて、架空のものです。実在する団体、個人とは一切関係ありません。

●「ナショナル・ジオグラフィック」の内容の全部、または一部を無断で他のメディアに転載することを禁じます。著作権はすべてJAP工房に帰属します。

●参考文献：「日本文明の謎を解く」(清流出版刊)、「文字の起源と歴史」(創元社刊)、「消えた古代文明」(講談社刊)、「古代遺跡ミステリー」(教育社刊)、「超古代オーバーチュアFILE」(学習研究社刊)、「世界の宗教101の謎」(河出書房新社刊)、「図解 曼荼羅大全」(東洋書林)  
●Photo: Jap-Inc, Studio Zimp, ©pierre-Fotolia.com ●協力: アスルマリノ

# Rock Star

CAFE

**KICHIJOJI**

上質のアートと、くつろぎのひとときを。

Rock Star Cafe 吉祥寺は、夜になると Bar になります。

グラスを傾けながら、GUILD-UNIT ART SPACE [GAS] のアートをお楽しみください。



**1-15-5,  
Kichijoji-Minamicho,  
Musashino-City,  
Tokyo, Jap**

## ダイヤモンドで覆われた原人の頭蓋骨

2年前にイギリスの現代美術アーティストのダミアン・ハーストが人間の頭蓋骨に8601個のダイヤモンドを散りばめた作品を発表したが、その元祖とも言える古美術品が日本で発見されて話題になっている。

約500年前の戦国時代、ポルトガルの宣教師が織田信長に献上し、明治初期に行方が分からなくなっていた「南蛮骸骨」が見つかったかも知れないのだ。ハースト作品のイミテーションを買ったつもりでしかなかった持ち主は、頭蓋骨の思わぬ逸話に驚いている。もし信長への献上品だとすれば数百億円。購入価格の数万倍の価値になるという。



## J.A.P.G.U. でナメナメクージの研究開始



吉祥寺大学の一井長馬准教授が長野県大町市美麻で発見し、同准教授によって研究が進められてきたナメナメクージ。人工孵化の成功で個体数も増えたことから、J.A.P.G.U. に数匹のナメナメクージが送られ、同研究施設でもその生態の研究が行われている。

J.A.P.G.U. では研究と共に、同施設に併設された展示館で期間限定な

がら一般公開も実施、世界各地から数多くのナメクジ愛好家が押し寄せた。

現時点ではWWFのレッドリストに登録されておらず、繁殖にも成功しているため、ナメクジ愛好家たちはナメナメクージの個人飼育を期待しているが、長馬准教授は「環境への影響などが分かっておらず、管理が不十分な飼育は危険」とコメントしている。最初に発見された美麻村ではナメナメクージの採取を禁じ、ナメナメクージ・パトロール・チームが村民の有志によって組織されている。

# パラミータ文明 解明の鍵は オレイハルコス

パラミータ文明の痕跡が世界中から報告されている。その中でも特に興味深いのが阿蘇で発見された阿塑像とサントリーニ島のミイラだ。どちらもオリハルコン、またはオレイハルコスと呼ばれる伝説の赤い金属でできている。そしてまた、南米エクアドル沖の海底とサントリーニ島にほど近いクレタ島からもオレイハルコス製の像が見つかった——。



## 新たな金属像の発見


この1年の間にパラミータ文明の遺物が世界各地から報告された。150年前の歴史家シウダッド・コンダルが発表したように、まだ我々が知らなかった超古代文明が存在していたことは明らかだ。しかしなぜこれほどまで広範囲に渡って遺物が世界中に散らばっているのだろうか？ アメリカ、メキシコ、ペルー、インドネシア、カンボジア、日本、ギリシャ……長い月日が遺物の拡散をもたらしたのか？ それともパラミータ文明の意匠が守られ続け、その後のさまざまな文明、時代で表現されてきたのだろうか？

見つかった遺物は年代測定不能なものが多く、そうした疑問を解くにはまだまだ物証が不足している。そんな中でまた新たな謎を呼ぶ遺物が南米エクアドル沖のカーネギー海嶺の海底遺跡から見つかった。

エクアドルとガラパゴス諸島の中間点に位置するこの海嶺には、近年になって海底カルデラの存在が確認されていたが、そのカルデラの外周部を調査していたスペインの探検家が海底の遺跡を発見し、そこからオレイハルコス（オリハルコン）製と思われる遺物が出土したのだ。

「この海底カルデラは今から1万年前にあった島の火山が大噴火を起こして海底に沈んだものです。私はアンデス文明の伝説として伝えられていたカーネギー文明がその島にあったと信じて調査を続けてきました。そしてついにカーネギー文明の遺跡と、この不思議な金属製の像を見つけ出したというわけです」

フランシスコ・グエル (Francisco Guell) が海底遺跡で見つけたという金属製の像は、日本の阿蘇にある阿塑（おそ）神像とまったく同じものなのだろうか？

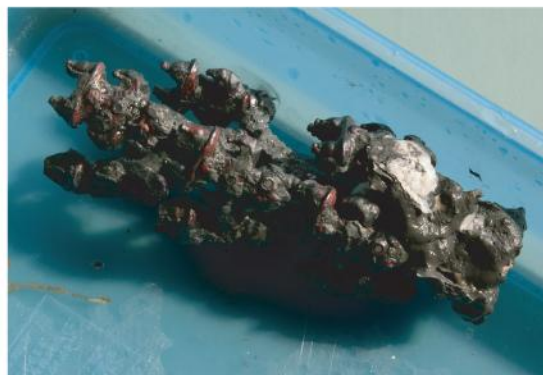


海底遺跡で金属製の像を見つけたスペインの冒険家フランシスコ・グエル。

「パラミータ文明が先なのか、私が発見したカーネギー文明が先なのかは分かりません。しかしこの未完成品はカーネギー文明で作られていたことを伝えています。現在でも鑄造方法の1つとして使われているロストワックス製法が、すでに使われていたほどの文明というのとはどんなものなのでしょうね。文明の持つ力からすれば、日本に完成品を届けるのも難しいことではなかったでしょう。これは余談ですが、ムー大陸伝説はもしかしたらカーネギー文明が変化して伝えられたものかも知れませんね」

F・グエルは遺跡が荒らされてしまうことを嫌い、海底遺跡の場所を明らかにしてはいない。そのため本格的な調査が始められるのはずっと先のことになるだろう。カーネギー文明の遺物はわずか1つに過ぎないが、それでもパラミータ文明の研究チームには大きな成果であることには違いない。

1万年も海底にあったとは思えない状態の金属像。フランスコ・グエルが発見を発表した当時は捏造説も飛び出したが、調査記録や関係者の証言によって捏造説は否定された。オレイハルコスが金と同様に腐蝕に強いために起こった災難だった。下の写真は海底から発見されたときのものの。







12体の像の集合。  
阿蘇の阿塑像には  
右目と腹部に金と  
銀が埋め込まれて  
いたが、この12  
体には埋め込まれ  
ていない。



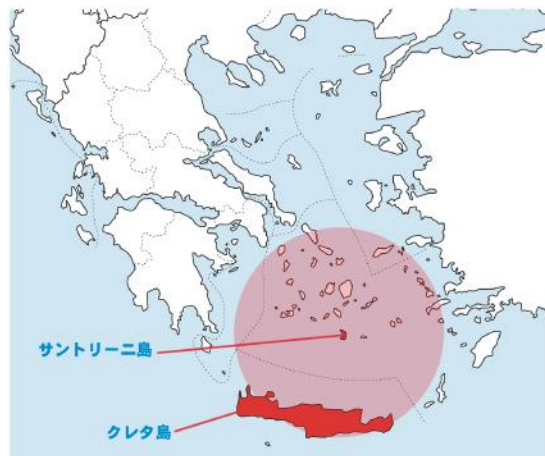


## クレタ島から見つかった ディアボロウス

あのミイラの腕が発見されたサントリーニ島と同じ文化圏、ギリシャのクレタ島からも類似した遺物が見つかった。島の東にある紀元前 2000 年頃のザクロス宮殿跡のさらに下から見つかった遺跡、前ザクロス文明遺跡から出土した。ザクロスの遺跡群は地盤沈下によって水没したため遺跡の劣化が少ないことで有名だが、さらにその下に築かれていた紀元前 1 万 5000 年頃の文明跡から出てきたのだ。これも阿蘇の阿塑像にとってもよく似ている。

発見したギリシャの考古学者ナソス・パドポラス (Nasos Papadopoulos) はこの像は古くからこの土地で信仰対象となっている「ディアボロウス」ではないかと言う。「このふくよかな体型はクレタ島東部ラシティ地方の村々で古くから伝わる豊穡の神ディアボロウスとよく似てい

クレタ島のザクロス宮殿跡。現在地表にある紀元前 2000 年頃の遺跡の下層にある前ザクロス文明遺跡からオレイハルコス製のディアボロウス像が出土した。



サントリーニ島が海に没したカルデラの外周部であることは有名だが、最近になって、クレタ島がその外輪であることが判明した。なんと直径 700 キロメートルの巨大なカルデラがあったことになる。



ディアボロウス像は阿蘇の阿塑像（左下）と同じように、金と銀が埋め込まれている。カーネギー海嶺の像（右下）には金や銀が埋め込まれていないことから、未完成であることがわかる。



ます。ギリシャ神話では、クレタ島で生まれたゼウスの母リアが、ゼウスを育てるために地元の戦士クレテスから牛のディアボロウスを譲りうけたといっています。そのためディアボロウス神には角があるのです」

腐蝕が激しく、阿塑像よりはるかに古い時代のものであることが分かる。だが、このディアボロウス、カーネギーで発見された金属像、阿塑像の3つは、デザインもサイズも、そして成分もほぼ同じだ。

「すべて赤い金属、オレイハルコスでできているが、オレイハルコス特有の含有物オレタミリウム（オレタミウム）の成分量が微妙に異なっている。時代が違っているか、もしくは作られた場所が違っている可能性もある。私はカーネギー文明も、前ザクロス文明も初期のパラミータ文明の一部だと思っている。」

U・イマカワックはある仮説を立てた。これまでの文明のようにその文明が時間と共に周辺地域に影響を及ぼしていったのではなく、転々と場所を変えていたのではないかと。文明そのものが地球規模で遊牧民のように移動していたのではないかと言うのだ。

U・イマカワックは発見されているパラミータ文明の遺物の多くが火山地帯、とくにカルデラの近くで見ついていることにも注目している。今回のカーネギー文明はもちろん、クレタ島も近年になって海中に沈んでしまっている巨大カルデラの外輪部だと言われているのだ。オレイハルコスの含有成分オレタミリウムはマグマの状態でも存在し、銅と結合することで低温でも構造が安定するようになる。オレイハルコスの生成にはマグマが不可欠であり、火山地帯周辺でオレイハルコス製の遺物が見つかるのは偶然ではないという。だがなぜカルデラなのかは彼自身も解き明かすことができない。U・イマカワックはカルデラ地帯に近い遺跡などに重点を置いて調査する方針だという。

## 未だ解き明かせない パラミータ文字

世界最古の文字と言われている楔形文字が使われたのが紀元前3300年頃。ネバダ砂漠で発見された紀元前1万2000年頃の粘土板に刻まれた文字＝ネバダの円盤文字は衝撃的であったが、その後、類似する遺物が一切見つからないために文字の解明には至っていない。その一方で、ネバダの円盤の反対面に刻まれていた記号に類似したものは、各地で出土している遺物にも見て取れる。

文字解明に行き詰まっているユー・コンダルは、この記号も文字と同じ役目があると考えている。

「私たちは今、ネバダの円盤文字の片面に刻まれているものをパラミータ文明の文字、その反対面に刻まれているものを記号と呼び分けていますが、どちらも文字として機能していた可能性があります。表音文字と表意文字の違い、神聖文字と民衆文字の違いかもしれません。どちらにしてもまだ解読するには資料が少なすぎます」

エジプト語の神聖文字と民衆文字の解読につながったロゼッタ・ストーンのような発見が待ち望まれるが、パラミータ文明の調査はまだ始まったばかり。ロゼッタ・ストーンのような大発見があったとしても解読には時間がかかるかもしれない。ロゼッタ・ストーンは1799年にナポレオンのエジプト遠征によって発見されたが、ジャン＝フランソワ・シャンポリオンによって解読に成功したのは1822年。もしロゼッタ・ストーンのような発見がなければ、原シナイ文字のように1世紀をかけても解読できない可能性もある。



ネバダの円盤文字。この粘土板に刻まれた文字は未だ解明できていない。その反対面に記号がある。



左の円盤文字と同じ遺跡で発見された円錐ピラミッド状の銀製装飾品。底面に記号が刻まれている。



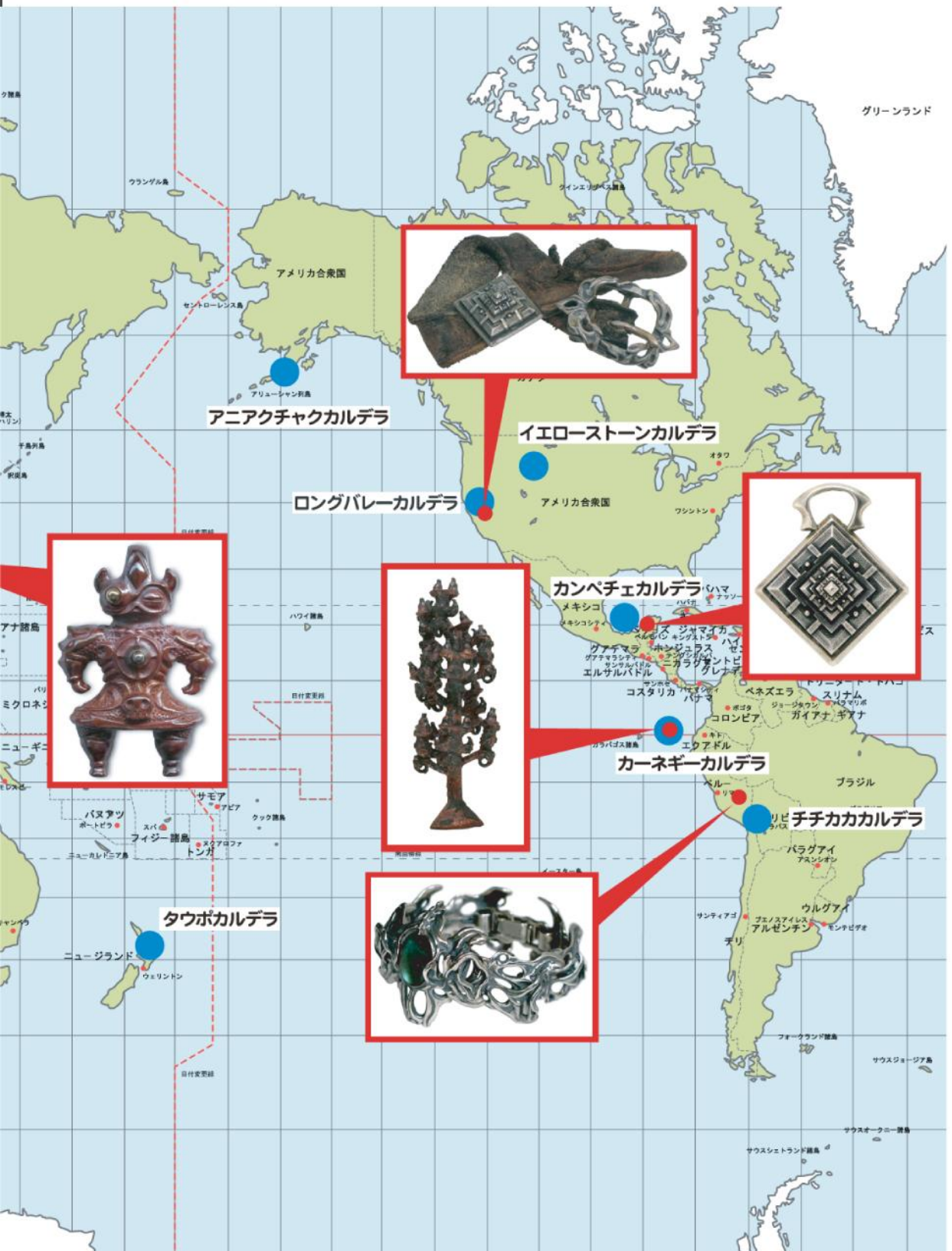
阿蘇の神社に祀られている阿塿(おそ)像。エクアドル沖のカーネギー文明海底遺跡、前ザクロス遺跡から発掘された像も同じ記号が胸に施されている。



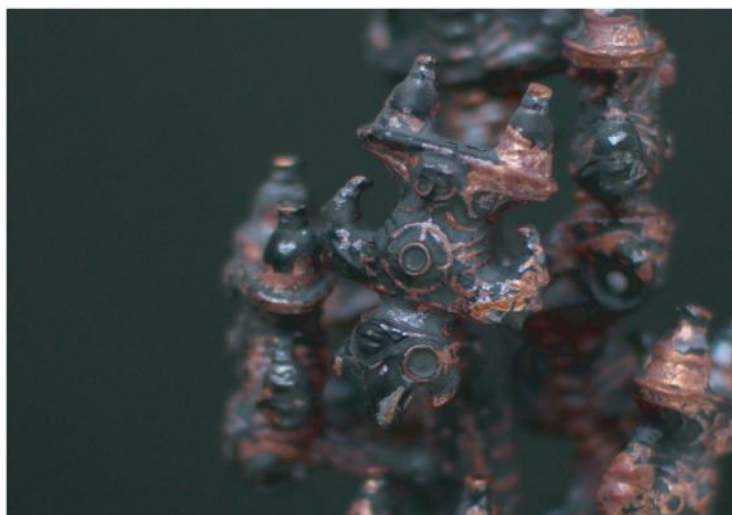
サントリーニ島で見つかった腕のミイラ。この台座に左の阿塿像と同じ記号が刻まれている。記号の外側にある4つの装飾も記号の一部かもしれないという。







パラミータ文明の遺物の発見場所と主なカルデラの分布図。U・イマカワックが指摘するように、関連性があるようにも思える。



## NEXT ISSUE

次号「NATIONAL GEOGRAJAP」は、  
夏頃公開予定。  
パラミータ文字の謎に挑みます。

『NATIONAL GRAJAP』にご意見、ご感想をお寄せください。

[grajap@live.jp](mailto:grajap@live.jp)